

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読 I a	左近 豊
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 旧約聖書ヒブル語本文を批判的手続きを経ながら読む。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; テキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特長を把握することができるようになる。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; エレミヤ書と哀歌を取り上げる。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の間観、世界観、そして歴史観を反映している。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読む。教会での説教、聖書研究における釈義に資する諸資料の紹介と活用を実際を学ぶ。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヒブル語文法履修者</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：エレミヤ書 序 1:1-3  第2回：エレミヤ書 1:4-8  第3回：エレミヤ書 1:9-10  第4回：エレミヤ書 1:11-13  第5回：エレミヤ書 1:14-16  第6回：エレミヤ書 1:17-19  第7回：エレミヤ書 2:1-3  第8回：エレミヤ書 2:4-6  第9回：エレミヤ書 2:7-9  第10回：エレミヤ書 2:10-13  第11回：エレミヤ書 2:14-16  第12回：哀歌 1:3~5  第13回：哀歌 1:6~7  第14回：哀歌 1:8~11  第15回：総括：</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 事前に当該箇所の上の諸問題を把握し、神学的思索を携えて授業に臨むことが望ましい。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; <i>Biblia Hebraica Stuttgartensia</i> (BHS)</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., <i>Hebrew and English Lexicon of the Old Testament</i>. (BDB)、L. Koehler and W.Baumgartner, <i>The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament (HALOT)</i>、  文法書:<i>Gesenius' Hebrew Grammar</i>、B.Waltke and M.O'Connor, <i>An Introduction to Biblical Hebrew Syntax</i>、  H.Bauer and P.Leander, <i>Historische Grammatik der hebraeischen Sprache</i>.  参考書:ヴェルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i>、『左近淑著作集 III』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament</i>、  S.Mandelkern, <i>Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae</i>、E.Hatch and H.A.Redpath, <i>A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament (LXX)</i> など</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt;  授業参加 40%  期末レポート 60%</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読II a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> ヒブル語のテキストを、丹念に読む。今回は、申命記25章、26章のテキストを共に読む。	
<到達目標> 聖書を「読む」ことの重要性を知り、「読む」ことのコツを身に付ける。	
<授業の概要> 申命記25-26章のヒブル語テキストの講読を行う。	
<履修条件> ヒブル語の辞書が使えること。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>01. 序論：Stuttgartensia と Quinta ヒブル語のテキスト</p> <p>02. 25章1-4節</p> <p>03. 25章5-8節</p> <p>04. 25章9-12節</p> <p>05. 25章13-16節</p> <p>06. 25章17-19節</p> <p>07. 26章1-4節</p> <p>08. 26章5-8節</p> <p>09. 26章9-12節</p> <p>10. 26章13-16節</p> <p>11. 26章17-19節</p> <p>12. 契約の言葉</p> <p>13. 契約の特殊な言い方</p> <p>14. アブラムの契約と申命記の契約</p> <p>15. まとめ</p>	
<準備学習等の指示> 毎回、割り当てられた箇所のテキストを日本語に訳して来ること。	
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia, Biblia Hebraica Quinta Editione Deuteronomiy	
<参考書>辞書や文法書は、授業の中で紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の翻訳によって評価する。	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読Ⅱ b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; ネヘミヤ記のヒブル語本文を読む。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; ネヘミヤ記原典を辞書、文法書を用いてきちんと翻訳できるようになる。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; BHSを用いて、ネヘミヤ記1章～4章を読む。古代語訳なども参照する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヒブル語基礎文法修得者。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション  第2回：ネヘミヤ記 1:1-6  第3回：ネヘミヤ記 1:7-11  第4回：ネヘミヤ記 2:1-7  第5回：ネヘミヤ記 2:8-15  第6回：ネヘミヤ記 2:16-20  第7回：ネヘミヤ記 3:1-6  第8回：ネヘミヤ記 3:7-13  第9回：ネヘミヤ記 3:14-20  第10回：ネヘミヤ記 3:21-27  第11回：ネヘミヤ記 3:28-32  第12回：ネヘミヤ記 3:33-38  第13回：ネヘミヤ記 4:1-6  第14回：ネヘミヤ記 4:7-13  第15回：ネヘミヤ記 4:14-17</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; あらかじめテキストを読み、きちんと予習して授業に参加すること。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS).</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 辞書は、F.Brown, S.R.Driver and C.A.Briggs, Hebrew and English Lexicon of the Old Testament (BDB)。また BHS の手引きとして『ヘブライ語聖書への手引き』（ウォンネベルガー 松田訳）などを用いる。さらに、岩波訳旧約聖書（池田訳）をも参照する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 授業への参加度で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義 I a	本間 敏雄
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 創世記3, 4章の墮罪物語をヒブル語原典(マソラ本文)において釈義する。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; ヒブル語印刷聖書(BHS, BHQ)本文の基礎知識、構文分析、釈義の諸方法論を修得し、当該テキストを本学的に釈義する。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 創世記3, 4章の墮罪物語をレニングラード写本(L)で読み、構文分析及び本文批判、文献批判、伝承史等釈義的諸方法を検討しつつ釈義する。マソラ及びヒブル語本文の諸現象に留意し、テキスト理解を深めたい。BHS, BHQ及びレニングラード写本の基礎知識も学ぶ。後期課程「旧約聖書特殊研究a」と合同。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヒブル語基礎文法修得者</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回 創世記3:1-3 蛇の誘惑(1) 第2回 3:4-6a // (2) 第3回 3:6b-10 墮罪 第4回 3:11-13 弁明 第5回 3:14-15 蛇への宣告 第6回 3:16-17a 宣告(1) 第7回 3:17b-19 // (2) 第8回 3:20-24 樂園追放 第9回 4:1-4 カインとアベル 第10回 4:5-8 カインの怒り 第11回 4:9-12 罪と罰 第12回 4:13-16 カインのしるし 第13回 4:17-22 レメクの子ら 第14回 4:23-24 レメクの復讐 第15回 4:25-26 セト 墮罪物語総括</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS):Genesis、Biblia Hebraica Quinta(BHQ):Genesis、レニングラード写本(Codex Leningradensis)写真版。辞書:Holladay、専門的なものは Gesenius、BDB 或いは HALOT (HALAT)。「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)(10.文の構造(構文論)、12補説:本文の諸現象(補注一覧))。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 「旧約聖書の本文研究」(E.ヴェルトヴァイン 鍋谷/本間共訳)、「旧約聖書釈義入門」(H.バルト/O.H.シュテック 山我哲雄訳)。「ヘブライ語聖書への手引き」(R.ウオンネベルガー 松田伊作訳)、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger)。諸文献は順次提示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義 I b	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 創世記5章アダムの系図と6, 7章ノア物語をヒブル語原典(マソラ本文)において釈義する。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; ヒブル語印刷聖書(BHS, BHQ)本文の基礎知識、構文分析、釈義の諸方法論を修得し、当該テキストを本学的に釈義する。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 創世記5章の主要箇所及び6, 7章をレニングラード写本(L)で読み、構文及び本文批判、文献批判、伝承史等釈義の諸方法を検討しつつ釈義する。マソラ及びヒブル語本文の諸現象に留意し、テキスト理解を深めたい。BHS, BHQ及びレニングラード写本の基礎知識も学ぶ。後期課程「旧約聖書特殊研究b」と合同。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヒブル語基礎文法修得者</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回 創世記5:1-8 アダム、セト 第2回 5:21-32 エノク〜ノア 第3回 6:1-4 神の子たち 第4回 6:5-7 主の後悔 第5回 6:8-10 ノア 第6回 6:11-13 滅びの宣告 第7回 6:14-16 箱舟 第8回 6:17-22 入船指示(1) 第9回 7:1-5 "(2) 第10回 7:6-9 入船(1) 第11回 7:10-12 洪水 第12回 7:13-16 入船(2) 第13回 7:17-20 洪水 第14回 7:21-24 滅亡 第15回 ノア物語総括</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS):Genesis, Biblia Hebraica Quinta(BHQ):Genesis、レニングラード写本(Codex Leningradensis) 写真版。辞書: Holladay、専門的なものは Gesenius、BDB 或いは HALOT (HALAT)。「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)(10.文の構造(構文論)、12補説:本文の諸現象(補注一覧))。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 「旧約聖書の本文研究」(E.ヴェルトヴァイン 鍋谷/本間共訳)、「旧約聖書釈義入門」(H.バルト/O.H.シュテック 山我哲雄訳)。「ヘブライ語聖書への手引き」(R.ウォンネベルガー 松田伊作訳)、A simplified guide to BHS(H.P.Rueger)。諸文献は順次提示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特講Ⅱ a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 最新の文献を用いてコヘレト書全体の積義をし、メッセージを読み解く。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 最新の外国語文献からコヘレト書解釈の知見を得、コヘレト書をよく知る。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 最新の外国語文献を参照しながら、コヘレト書の各章を積義する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヘブライ語文法を履修し、英語とドイツ語の文献を読むことができる人が望ましい。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回：オリエンテーション 第2回：総論 第3回：第1章 第4回：第2章 第5回：第3章 第6回：第4章 第7回：第5章 第8回：第6章 第9回：第7章 第10回：第8章 第11回：第9章 第12回：第10章 第13回：第11章 第14回：第12章 第15回：まとめ</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; コヘレト書の原文と最近の外国語文献を読む。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; BHSあるいはBHQ</p>	
<p>&lt;参考書&gt; M.Köhlmoos, Kohelet (ATD), 2015.; A.Schellenberg, Kohelet (Zürcher Bibelkommentare), 2013.; L.Schwiehorst-Schönberger, Kohelet (HThAT), 2004.; A.Schoors, Ecclesiastes (Historical Commentary on the Old Testament), 2013.</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 授業への貢献度とレポート（6000字）によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特講II b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 契約のテキストを手がかりに、聖書神学的にテキストを読むことの意味を考える。	
<到達目標> 聖書神学の神学的前提と手法を身に付ける。	
<授業の概要> 契約のテキストの特徴を講義する。	
<履修条件> 大学院後期課程との合同の授業である。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>01. 契約とは何か</li> <li>02. 契約は新しい思想か</li> <li>03. 契約を「切る」とは、どういうことか</li> <li>04. 契約を「立てる」</li> <li>05. アブラハムの契約</li> <li>06. モーセの契約</li> <li>07. ダビデの契約</li> <li>08. アブラハムの契約の二系統</li> <li>09. 申命記の契約と祭司の契約</li> <li>10. 申命記の契約</li> <li>11. 祭司の契約</li> <li>12. 「ヤーウィスト」の契約</li> <li>13. 契約の破綻 法における</li> <li>14. 契約の破綻 預言者における</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<準備学習等の指示> 話を聞く準備をして来ること。	
<テキスト> その都度指示する。	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業の最終日に「聖書における契約」と題する小レポートを提出していただき、そのレポートの内容によって、評価する。	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研 I a	田中 光
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; イザヤ書の正典的（カノンの）解釈</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; B. S. チャイルズの解釈的アプローチを理解した上で、イザヤ書の中の「王の預言」と「僕預言」を「正典的」に解釈することを目指す。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; イザヤ書の「王の預言」と「僕預言」のヘブライ語テキストを読み、それに関する注解や論文を読む。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヘブライ語と英語（できればドイツ語）を理解できることが望ましい。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション&amp;イントロダクション 問題の所在: イザヤ書におけるメシア思想の歴史的発展?</li> <li>2. B. S. チャイルズのカノンの解釈①: チャイルズのカノン概念の把握</li> <li>3. B. S. チャイルズのカノンの解釈②: カノンの解釈と他の解釈法の関係・カノンの解釈の批判と受容 イザヤ書を解釈するための解釈的枠組み (regula fidei) に関する考察</li> <li>4. メシア預言の弁証法: 地上的待望と終末論的待望 イザヤ書 7 章 1-17 節① (マソラテキストの翻訳前半)</li> <li>5. イザヤ書 7 章 1-17 節② (マソラテキストの翻訳後半)</li> <li>6. 上記箇所に関連する注解・論文の読解</li> <li>7. イザヤ書 8 章 23 節-9 章 6 節① (マソラテキストの翻訳前半)</li> <li>8. イザヤ書 8 章 23 節-9 章 6 節② (マソラテキストの翻訳後半)</li> <li>9. 上記箇所に関連する注解・論文の読解</li> <li>10. イザヤ書 11 章 1-10 節① (マソラテキストの翻訳前半)</li> <li>11. イザヤ書 11 章 1-10 節② (マソラテキストの翻訳後半)</li> <li>12. 上記箇所に関連する注解・論文の読解</li> <li>13. イザヤ書 32 章 1-8 節 (マソラテキストの翻訳)</li> <li>14. 上記箇所に関連する注解・論文の読解</li> <li>15. 補論的考察: イザヤ書 4 章 2-6 節</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; ヘブライ語テキストの翻訳、指示された注解・論文の読解を事前に行っておくこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; BHS; B. S. Childs, <i>Isaiah</i> (Louisville: Westminster John Knox Press, 2001).</p>	
<p>&lt;参考書&gt; B. S. Childs, <i>Introduction to the Old Testament as Scripture</i> (Philadelphia: Fortress Press, 1979); D. R. Driver, <i>Brevard Childs Biblical Theologian: For the Church's One Bible</i> (Grand Rapids: Michigan, 2010).</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 毎回の授業への貢献度、発表、期末のレポートで評価する。</p>	



聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研 I b	田中 光
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; イザヤ書の正典的（カノンの）解釈</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; B. S. チャイルズの解釈的アプローチを理解した上で、イザヤ書の中の「王の預言」と「僕預言」を「正典的」に解釈することを目指す。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; イザヤ書の「王の預言」と「僕預言」のヘブライ語テキストを読み、それに関する注解や論文を読む。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヘブライ語と英語（できればドイツ語）を理解できることが望ましい。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション&amp;イントロダクション + 四つの王の預言のカノンの意味に関する考察</li> <li>2. イザヤ書 40-66 章における時間的枠組み: 古いことと新しいこと イザヤ書 42 章 1-9 節（マソラテキストの翻訳）</li> <li>3. 上記箇所に関連する注解・論文の読解</li> <li>4. イザヤ書 48 章 16 節・49 章 6 節①（マソラテキストの翻訳前半）</li> <li>5. イザヤ書 48 章 16 節・49 章 6 節②（マソラテキストの翻訳後半）</li> <li>6. 上記箇所に関連する注解・論文の読解</li> <li>7. イザヤ書 50 章 4-11 節①（マソラテキストの翻訳前半）</li> <li>8. イザヤ書 50 章 4-11 節②（マソラテキストの翻訳後半）</li> <li>9. 上記箇所に関連する注解・論文の読解</li> <li>10. イザヤ書 52 章 13 節・53 章 12 節①（マソラテキストの翻訳前半）</li> <li>11. イザヤ書 52 章 13 節・53 章 12 節②（マソラテキストの翻訳後半）</li> <li>12. 上記箇所に関連する注解・論文の読解</li> <li>13. イザヤ書におけるダビデ的要素とモーセ的要素の相互連関についての考察（主に、7 章、52-53 章）</li> <li>14. ダビデ的要素とモーセ的要素の相互連関の性質についての考察（神学的文法の練磨、礼拝の文脈）</li> <li>15. 議論の総合・結論的考察</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; ヘブライ語テキストの翻訳、指示された注解・論文の読解を事前に行っておくこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; BHS; B. S. Childs, <i>Isaiah</i> (Louisville: Westminster John Knox Press, 2001).</p>	
<p>&lt;参考書&gt; B. S. Childs, <i>Introduction to the Old Testament as Scripture</i> (Philadelphia: Fortress Press, 1979); D. R. Driver, <i>Brevard Childs Biblical Theologian: For the Church's One Bible</i> (Grand Rapids: Michigan, 2010).</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 毎回の授業への貢献度、発表、期末のレポートで評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習 I a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 旧約聖書の基本文献をじっくり読み、旧約学の基本的知識を身に着ける。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 旧約聖書学とはどのような学問であるかを知り、その知見を拓げる。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 並木浩一著作集第3巻を読み、毎回その内容をめぐって議論する。毎回、参加者に内容報告していただく。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヘブライ語の知識はなくてよい。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回：オリエンテーション 第2回：第一部第1章 モーセ とりなしの愛 第3回：同第2章 古代イスラエルにおける契約思想 第4回：第二部第1章 古代イスラエルの預言者 第5回：同第2章（付論も含む） 預言の伝統と変容 第6回：同第3章 預言者の終末論と黙示 第7回：同第4章 メシアニズム・その過去と現在 第8回：第三部第1章 人稱を持つ神と人間 第9回：同第2章 旧約時代における多神教と一神教 第10回：同3章 旧約聖書形成期に見る一神教の三類型 第11回：第四部第1章 創世記が描く人、民族、人類 第12回：同第2章 雅歌 牧歌の伝統を革新する愛の表現 第13回：同第3章 聖書の時代の旅人たち 第14回：特別講義 第15回：総括</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 毎回、あらかじめテキストを読んで参加すること。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; 並木浩一著作集3『旧約聖書の水脈』、日本キリスト教団出版局、4000円。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; そのつど指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 発表の内容と提出していただくレポート（6000字）で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習 I b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 旧約聖書学の基本文献をじっくり読み、旧約学の基本知識を身に着ける。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 旧約聖書神学の基本的用語をよく理解することにより、旧約学の専門書を読んで理解できるようになる。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; ブルグゲマン『旧約聖書神学用語辞典』のすべての項目を読み、毎回その内容をめぐって議論する。毎回、参加者に内容報告をしていただく。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; ヘブライ語の知識はなくてよい。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回：オリエンテーション 第2回：愛、贖い、アシェラ、アッシリア、荒れ野、安息日、イゼベル、一神教 第3回：祈り、栄光、エジプト、エズラ、選び、エリヤ、エルサレム、王権 第4回：応報、割礼、カナン人、金、神顕現、神の似姿、神の箱、感謝 第5回：義、聞く、犠牲、奇跡、希望、教育、共同体、寄留者 第6回：悔い改め、神の僕、苦しみ、契約、契約の書、混沌、祭司、 第7回：祭司伝承、サタン、サマリヤ人、賛美、死、十戒、祝祭、祝福 第8回：出エジプト、主の日、書記、贖罪、神義論、信仰、神殿、申命記神学 第9回：救い、性、聖、正典、聖なる高台、戦争、創造、 第10回：族長、墮罪、ダビデ、地、知恵、罪、天使、伝承 第11回：天上の会議、トラー、嘆き、残りの者、バアル、バビロン、ハンナ 第12回：ヒゼキヤの改革、復讐、復活、プリム、フルダ、ペルシア、ヘレム、 第13回：豊穡宗教、暴力、捕囚、ミリアム、メシア、黙示思想、モーセ 第14回：約束、寡婦、赦し、預言者、ヨシヤの改革、ヨベル、隣人 第15回：倫理、霊、拝、歴史、歴代誌史家、災い、主</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 毎回、あらかじめ辞典項目を呼んでおくこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; W.ブルグゲマン（小友/左近監訳）『旧約聖書神学用語辞典』、日本キリスト教団出版局、6200円。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; A.バルレユング/C.フレーフェル（山吉訳）『旧約新約聖書神学事典』、教文館。そのほかは授業で指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 発表の内容と提出していただくレポート（6000字）によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
アラム語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<授業のテーマ> 旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。	
<到達目標> ①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。	
<授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記31：47・エレミヤ10：11・エズラ4：8-24・5：1-17など）、アラム語文法を学ぶ。	
<履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。	
<授業計画> 第1回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。 第2回：創世記31：47を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。 第3回：エレミヤ10：11を読みつつ、動詞の Peal 形の完了・未完了を学ぶ。 第4回：エズラ4：8-24の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。 第5回：エズラ4：8-24の講読(2) 動詞の Hapel 形の完了を学ぶ。 第6回：エズラ4：8-24の講読(3) 動詞の Peal 形の分詞、Hitpeel 形の完了・未完了を学ぶ。 第7回：エズラ4：8-24の講読(4) 動詞の Pael 形の完了・未完了、Hapel 形の未完了を学ぶ。 第8回：エズラ4：8-24の講読(5) 動詞の Hapel 形の分詞を学ぶ。 第9回：エズラ4：8-24の講読(6) 動詞の Pael 形・Hitpeel 形・Hitpaal 形の分詞を学ぶ。 第10回：エズラ4：8-24の講読(7) 二根字動詞の Peal 形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。 第11回：エズラ5：1-17の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。 第12回：エズラ5：1-17の講読(2) 二根字動詞の Hapel 形を学ぶ。 第13回：エズラ5：1-17の講読(3) 二根字動詞の Hitpeel 形を学ぶ。 第14回：エズラ5：1-17の講読(4) Pè Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第15回：エズラ5：1-17の講読(5) Pè Nûn 動詞の変化を学ぶ。	
<準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。	
<テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition	
<参考書> 左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971	
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
アラム語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年での履修が望ましい。
<授業のテーマ> 旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。	
<到達目標> ①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。	
<授業の概要> 聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル書）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）	
<履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。	
<授業計画> 第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル書の講読に備える。 第2回：ダニエル書の講読(1) Pè' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。 第3回：ダニエル書の講読(2) Pè' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。 第4回：ダニエル書の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。 第5回：ダニエル書の講読(4) Lāmed' ālep・Lāmed Hē 動詞の変化を学ぶ。 第6回：ダニエル書の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。 第7回：ダニエル書の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。 第8回：ダニエル書の講読(7) 代名詞語尾つきの動詞の変化を学ぶ。 第9回：ダニエル書の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。 第10回：ダニエル書の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。 第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。 第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。 第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。 第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。	
<準備学習等の指示> 講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。	
<テキスト> Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition	
<参考書> 左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971	
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学 I	大住 雄一 小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 修士課程修了にふさわしい論文が書けるようになる。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究ならびに二次文献の検索を行う。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係      小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 2018年9月に旧約に関する修士論文を提出する予定である者は、参加すること。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回：導入 論文執筆の意味 第2回：課題の見だし方 律法関係 第3回：課題の見だし方 預言者関係 第4回：課題の見だし方 文学関係 第5回：テキスト翻訳 律法関係 第6回：テキスト翻訳 預言者関係 第7回：テキスト翻訳 文学関係 第8回：テキストの構造解明 律法関係 第9回：テキストの構造解明 預言者関係 第10回：テキストの構造解明 文学関係 第11回：辞書、コンコルダンスの使い方 第12回：二次文献の検索方法 第13回：暫定的な文献表の作成 第14回：二次文献の使い方 第15回：方法を使いこなす</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学II	大住 雄一 小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ>今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程二年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。	
<到達目標> 修士課程修了に相応しい論文を執筆、完成させる。	
<授業の概要> 論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係      小友聡：黙示文学、知恵文学関係	
<履修条件>本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること	
<授業計画>第1回：導入 論文執筆の手順 第2回：問題設定 律法関係 第3回：問題設定 預言者関係 第4回：問題設定 文学関係 第5回：研究史 律法関係 第6回：研究史 預言者関係 第7回：研究史 文学関係 第8回：主要テーゼ 律法関係 第9回：主要テーゼ 預言者関係 第10回：主要テーゼ 文学関係 第11回：論証過程 律法関係 第12回：論証過程 預言者関係 第13回：論証過程 文学関係 第14回：結論 第15回：最終的な質疑応答	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> 論文執筆者別に指示する。	
<参考書> 毎回必要な文献を指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末には暫定的に可否のみ通知するが、最終的に提出論文の成績が本演習の成績となる。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特講 I a	中野 実
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業のテーマ> ヘブライ書の釈義的研究	
<到達目標> 具体的な聖書テキスト（しかも原典で）を釈義する手続きを学びながら、聖書を学問的および主体的に解釈する力を身につけられる。	
<授業の概要> 今年度は、ヘブライ書の「釈義」という課題を一緒に学ぶ。序論的な事柄を学んだのち、各単元（ペリコペー）を分担しつつ、釈義していく。	
<履修条件> 通年で履修する事が好ましい。そうでない場合は、事前に担当者に相談すること。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 緒論Ⅰ いつ、どこで、誰によって執筆されたか？</li> <li>③ 緒論Ⅱ 誰に対して何のために書かれたか？ ローマ教会の背景？</li> <li>④ 緒論Ⅲ ヘブライ書の構成について</li> <li>⑤ 1章1-4節 「文脈、構成、背景」</li> <li>⑥ 1章1-4節 「文法上の問題」「キーワード、キー概念」</li> <li>⑦ 1章5-14節 学生による発題</li> <li>⑧ 1章5-14節 「文脈、構成、背景」「文法上の問題」</li> <li>⑨ 1章5-14節 「キーワード、キー概念」「総合およびメッセージ」</li> <li>⑩ 2章1-4節 学生による発題、「文脈、構成、背景」</li> <li>⑪ 2章1-4節 「文法上の問題」「キーワード、キー概念」</li> <li>⑫ 2章5-18節 学生による発題</li> <li>⑬ 2章5-18節 「文脈、構成、背景」「文法上の問題」</li> <li>⑭ 2章5-18節 「キーワード、キー概念」「総合およびメッセージ」</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>	
<準備学習等の指示> こつこつ原典および注解書などに取り組む努力をする	
<テキスト> ギリシャ語新約聖書	
<参考書> 必要に応じてクラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの積極的参加（出席、発表、質問、コメントなど）を求める。参加、分担発表（40%）、および（5000-6000字の）期末レポート（60%）によって総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。	



聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特講 I b	中野 実
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業のテーマ>ヘブライ書の釈義的研究	
<到達目標>具体的な聖書テキスト（しかも原典で）を釈義する手続きを学びながら、聖書を学問的および主体的に解釈する力を身につけられる。	
<授業の概要>今年度はヘブライ書の「釈義」という課題を、一緒に分担しながら学ぶ。	
<履修条件>通年で履修する事が好ましい。そうでない場合は、事前に担当者と相談する事。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 3章 1-6節 学生による発題</li> <li>② 3章 1-6節 「文脈、構成、背景」「文法上の問題」</li> <li>③ 3章 1-6節 「キーワード、キー概念」「総合およびメッセージ」</li> <li>④ 3章 7-19節 学生による発題</li> <li>⑤ 3章 7-19節 「文脈、構成、背景」「文法上の問題」</li> <li>⑥ 3章 7-19節 「キーワード、キー概念」「総合およびメッセージ」</li> <li>⑦ 4章 1-11節 学生による発題</li> <li>⑧ 4章 1-11節 「文脈、構成、背景」「文法上の問題」</li> <li>⑨ 4章 1-11節 「キーワード、キー概念」「総合およびメッセージ」</li> <li>⑩ 4章 12-13節 「文脈、構成、背景」「文法上の問題」「キーワード、キー概念」</li> <li>⑪ 4章 14-16節 学生による発題、「文脈、構成、背景」</li> <li>⑫ 4章 14-16節 「文法上の問題」「キーワード、キー概念」</li> <li>⑬ 5章 1-10節 学生による発題、「文脈、構成、背景」</li> <li>⑭ 5章 1-10節 「文法上の問題」「キーワード、キー概念」</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>	
<準備学習等の指示>こつこつ原典および注解書などに取り組む努力をする	
<テキスト>ギリシャ語新約聖書	
<参考書>必要に応じてクラスで指示する	
<学生に対する評価（方法・基準）>参加度、分担発表（40%）と（5000-6000字の）期末レポート（60%）によって総合的に評価する。ただし、出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特研 I a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; テサロニケの信徒への手紙一、二積義を通して初期キリスト教の形成、パウロ伝道について学ぶ。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; パウロの真正書簡、第二書簡の違いをふまえてテサロニケ両書簡、パウロの伝道活動を理解する。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; テサロニケの信徒への手紙一、二の積義。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テサロニケの信徒への手紙一、概説</li> <li>2. テサロニケの信徒への手紙一、1章</li> <li>3. テサロニケの信徒への手紙一、2章</li> <li>4. テサロニケの信徒への手紙一、3章</li> <li>5. テサロニケの信徒への手紙一、4章</li> <li>6. テサロニケの信徒への手紙一、5章</li> <li>7. テサロニケの信徒への手紙一、総括</li> <li>8. テサロニケの信徒への手紙二、概説</li> <li>9. テサロニケの信徒への手紙二、1章</li> <li>10. テサロニケの信徒への手紙二、2章</li> <li>11. テサロニケの信徒への手紙二、3章</li> <li>12. テサロニケの信徒への手紙二、総括</li> <li>13. テサロニケの信徒への手紙一、二 終末論</li> <li>14. テサロニケの信徒への手紙一、二 レトリック</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 担当する箇所を G.フィー『新約聖書の積義』に従って積義し、発表、検討し合う。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; 適宜紹介する。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 適宜紹介する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 発表、議論への貢献等による授業参加、期末課題。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特研 I b	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 使徒パウロの伝道活動とパウロ教会について学ぶ。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; パウロ書簡をその歴史的、社会的状況をふまえて理解する。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 新約聖書を社会学的方法によって理解する。『古代都市のキリスト教』を中心に近似のテーマを扱う他に三冊のテキストを比較検討する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ミークス『古代都市のキリスト教』序論/</li> <li>3. クナップ『古代ローマの庶民たち』1、2章</li> <li>4. ミークス 1章 「パウロ的キリスト教の都市環境」</li> <li>5. スターク『キリスト教とローマ帝国』1、2、3章</li> <li>6. ミークス 2章 「パウロ教会の会員達の社会層」</li> <li>7. クナップ 3、4、5章</li> <li>8. ミークス 3章 「教会の形成」</li> <li>9. スターク 4、5、</li> <li>10. スターク 6、7章</li> <li>11. ミークス 4章 「統治」</li> <li>12. スターク 8、9、10章</li> <li>13. ミークス 5章 「祭儀」</li> <li>14. ミークス 6章 「信仰形態と生活形態」</li> <li>15. ウィルケン 『ローマ人が見たキリスト教』I、II、III章</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 各自、テキストを分担し講読を行う。各回発表担当者は議論の紹介をし、受講者と共に批判検討を行う。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; ミークス『古代都市のキリスト教』ヨルダン社 1989年 クナップ『古代ローマの庶民たち』白水社 2015年 スターク『キリスト教とローマ帝国』新教出版社、2014年 ウィルケン『ローマ人が見たキリスト教』ヨルダン社、1987年</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 適宜紹介する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 発表、議論への貢献等による授業参加、期末課題。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I a	遠藤 勝信
前期・2単位	<登録条件> 原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<授業のテーマ> ヨハネの福音書10～11章の原典釈義。	
<到達目標> 研究史、釈義の方法論、及びテキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かえるようにする。	
<授業の概要> はじめに近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。	
<履修条件> 新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。	
<授業計画> I. 講義を中心に 第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。 第02回 ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。 第03回 テキストの文学批評の実際。 第04回 テキストと歴史批評の実際。  II. 演習(参加者による釈義の発表とディスカッション)を中心に 第05回 ヨハネ10:01～06(羊の囲いのたとえ)の原典釈義 第06回 ヨハネ10:07～13(羊飼いのたとえ-その1)の原典釈義 第07回 ヨハネ10:14～21(羊飼いのたとえ-その2)の原典釈義 第08回 ヨハネ10:22～30(ユダヤ人らの応答-その1)の原典釈義 第09回 ヨハネ10:31～41(ユダヤ人らの応答-その2)の原典釈義 第10回 ヨハネ11:01～10(ラザロの死-その1)の原典釈義 第11回 ヨハネ11:11～16(ラザロの死-その2)の原典釈義 第12回 ヨハネ11:17～27(復活のいのち)の原典釈義 第13回 ヨハネ11:28～37(イエスの涙)の原典釈義 第14回 ヨハネ11:38～44(ラザロの蘇生)の原典釈義  III. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。	
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる箇所ギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。	
<テキスト> Nestle-Aland (28 <sup>th</sup> ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>	
<参考書> R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年 R・A・カルベッパ著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年 R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年 C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i> , 2003. M. Endo, <i>Creation and Christology - A Study on the Johannine Prologue</i> (WUNT), 2002. 他、クラスで随時紹介。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000文字])。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I b	遠藤 勝信
後期・2単位	<登録条件> 原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<授業のテーマ> ヨハネの黙示録16～18章の原典釈義。	
<到達目標> 研究史、釈義の方法論、及びテキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かえるようにする。	
<授業の概要> はじめに近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。	
<履修条件> 新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。	
<授業計画>	
I. 講義を中心に	
第01回	イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。
第02回	黙示録を読む前に(その1): 黙示録の周辺、背景理解。
第03回	黙示録を読む前に(その2): 構造と構成、神学、他。
第04回	黙示録1～16章7節までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。
II. 演習(参加者による発表とディスカッション)を中心に	
第05回	黙示録16:08～11 (第四、第五の天使の鉢)の原典釈義
第06回	黙示録16:12～16 (第六の天使の鉢)の原典釈義
第07回	黙示録16:17～21 (第七の天使の鉢)の原典釈義
第08回	黙示録17:01～06a (大淫婦)の原典釈義
第09回	黙示録17:07b～14 (大淫婦の秘められた意味)の原典釈義
第10回	黙示録17:15～18 (さばきの予告)の原典釈義
第11回	黙示録18:01～03 (バビロン滅亡)の原典釈義
第12回	黙示録18:11～17a (地の商人たち)の原典釈義
第13回	黙示録18:17b～20 (海を行く者たち)の原典釈義
第14回	黙示録18:21～24 (宣告)の原典釈義
III. 総括	
第15回	釈義演習の総括的な反省と展望。
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる箇所ギリシャ語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。	
<テキスト> Nestle-Aland (28 <sup>th</sup> ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>	
<参考書> 佐竹明著『ヨハネの黙示録』(上・中巻)2009年 R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年 R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i> , 1993. G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999. D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997. S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業における発表と期末試験(指定されたテキストの釈義ペーパー[6,000～8,000文字])。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学 I	中野 実 焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件> 新約神学で修論を書く予定の学生
<授業のテーマ> 来年度に修士論文を提出予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。	
<到達目標> 適切なテーマを選定することができ、論文を書くための技術を身につけることができる。	
<授業の概要> 論文を書くとはどういうことかを学びつつ、各自その課題を進めていく。毎回、学生の発表を中心に進められていく。全体としては二人の教員が共に責任を負うが、それぞれの指導担当学生との個別指導も織り交ぜながら行なわれる。	
<履修条件> 2018年9月に修論を提出予定の学生	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 論文を書くとは？</li> <li>③ 各自の課題、問題探し</li> <li>④ その課題、問題に関連するテキスト探し</li> <li>⑤ 課題テキストについて深く学ぶ</li> <li>⑥ テーマの選定、見直し、決定</li> <li>⑦ 研究のための方法およびツールについて</li> <li>⑧ 資料、先行研究探し</li> <li>⑨ 先行研究の学び、</li> <li>⑩ 先行研究の学びとそこから展開</li> <li>⑪ 問題設定、テーゼへ向かって</li> <li>⑫ 問題設定、テーゼの吟味</li> <li>⑬ 題名、目次作成へ向かって</li> <li>⑭ 議論の組み立てへ向かって</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>	
<準備学習等の指示> 論文はモノローグではないので、教師、学生との対話を大事にすること	
<テキスト> 必要に応じて、指示する。	
<参考書> 担当者は必要に応じて、指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。テーマの選定、課題テキストの学び、先行研究の学び、論文を書く技術をみがくことなどに関して十分な努力をしているかどうかの評価の指標となる。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	中野 実 焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件> 新約専攻の大学院2年生
<授業のテーマ> 今年度前期末に修論を提出予定の学生のための演習。	
<到達目標> 各自が修士論文を進めていくために必要な手助けが与えられ、論文を仕上げることができる。	
<授業の概要> 論文の執筆段階における、各自の研究発表が中心となる。指導教授および参加学生の質問や意見をききつつ、論文を仕上げていく。	
<履修条件> 2017年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の学生	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① オリエンテーション</li> <li>② 問題設定の点検</li> <li>③ 資料の点検</li> <li>④ 題名、目次、議論の枠組みを整える。</li> <li>⑤ より明確な問題設定の獲得</li> <li>⑥ (仮)序論の執筆</li> <li>⑦ 研究史に関する発表</li> <li>⑧ 研究史に基づく展開</li> <li>⑨ 論文のテーゼ、発表</li> <li>⑩ 論文のテーゼの点検</li> <li>⑪ 議論の組み立て 発表</li> <li>⑫ 議論の組み立て 点検</li> <li>⑬ 結論を書く</li> <li>⑭ 論文のフォーマットの整理、注、文献表など。</li> <li>⑮ まとめ</li> </ol>	
<準備学習等の指示> クラスで指示する	
<テキスト> 必要に応じて、指示する	
<参考書> 必要に応じて、指示する	
<学生に対する評価(方法・基準)> クラスへの出席、課題への参加度などによって、総合的に評価する。修士論文を仕上げていく課題にどれほど積極的に取り組んでいるかが評価の指標となる。	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 「三位一体の神」	
<到達目標> キリスト教信仰の中心であり、決定的な内容である「三位一体の神」とは何か、その内容の理解を深める。特に現代の神学が何を問題にしているかを理解し、神学（教義学）的に考えることを学ぶ。	
<授業の概要> 三位一体の神の認識が歴史的啓示に基づいてどのように認識され、その内容として「三位と一体」「内在的三位一体と経綸的三位一体」「フィリオクエの問題」「聖霊の位格性」など、重大問題を扱う。	
<履修条件>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 歴史的啓示からの神認識</li> <li>(2) 歴史的啓示による神の認識</li> <li>(3) 三つの位格と神の一体性</li> <li>(4) 経綸的三位一体と内在的三位一体、その区別</li> <li>(5) その関係</li> <li>(6) 三位にいます神の一体性</li> <li>(7) 一体性をめぐる三つの説（唯一神教的 vs 三神論的）</li> <li>(8) 三位一体的唯一神教</li> <li>(9) 神性の起源なき起源としての父なる神のモナルキア</li> <li>(10) フィリオクエ（子とからも）</li> <li>(11) 聖霊の位格性</li> <li>(12) キリストと聖霊</li> <li>(13) 三位一体と神の受苦</li> <li>(14) 三位一体の神の人格性</li> <li>(15) 総括</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p> <p>古代教会における三位一体論をめぐる教理史について復習をしておくこと</p>	
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <p>主要な資料としては、その都度「講義資料」を配布する。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 近藤『啓示と三位一体』（教文館）、モルトマン『三位一体と神の国』（新教出版社）、パネンベルク『組織神学入門』（教団出版局）、バルト『神の言葉 1/2』（新教出版社）</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <p>4000 - 6000 字のレポートによって総合的に評価する。講義で扱った内容との対論を試みること。</p>	



組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講 I b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 「創造論」	
<到達目標> キリスト教教義学が扱う「創造論」のほぼ全容を学び、創造の神、神の創造の働き、被造物としての人間と世界、さらに時間や空間についての神学的理解を身に着ける。	
<授業の概要> 創造者である神とその創造行為から、被造物としての世界万物や人間の理解に及ぶ。その都度、この信仰の理解が持っている現代的な意味について検討したい。	
<履修条件>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 歴史的啓示と創造信仰</li> <li>(2) 創造者である神としての三位一体の神</li> <li>(3) 神の創造行為（無からの創造と混沌の秩序化）</li> <li>(4) 被造物の保持と継続的創造</li> <li>(5) 新しい創造と進化</li> <li>(6) 創造の時間と空間</li> <li>(7) 創造された世界</li> <li>(8) 一つの世界（はじめから終わりまで）</li> <li>(9) 天と地</li> <li>(10) 被造物としての人間</li> <li>(11) 共に生きる人間</li> <li>(12) 他の生命体</li> <li>(13) 宇宙の問題</li> <li>(14) 死と悪の問題（創造の目標、創造と神の国、創造と救済）</li> <li>(15) 総括</li> </ol>	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> その都度、講義資料として拙著のノートを配布する。	
<参考書> 拙著『啓示と三位一体』（教文館）、モルトマン『創造における神』（新教出版社）、パネンベルク『組織神学入門』（教団出版局）、『プルンナー著作集 第3巻』（教文館）	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <p>4000 - 6000 字のレポートによって総合的に評価する。講義で扱った内容との対論を試みること。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講Ⅱ a	須田 拓
前期・2単位	<登録条件> 学期毎の登録可
<p>&lt;授業のテーマ&gt;  義認論と贖罪論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、深い教義学の理解を持つことを目指す。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt;  義認や贖罪という信仰の重要なテーマについて、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自らこの問題について考えることができるようになる。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt;  義認論と贖罪論について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき義認論・贖罪論の姿を模索する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;  特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;  第1回 オリエンテーション  第2回 義認論の論点(1) カトリック教会の義認論(義化)と信仰義認の相違  第3回 義認論の論点(2) 義の転嫁  第4回 義認と再生・聖化の関係(1) カール・バルトの場合  第5回 義認と再生・聖化の関係(2) ヴォルフハルト・パネンベルクとユルゲン・モルトマンの場合  第6回 義の転嫁と三位一体論的義認論  第7回 ローマ・カトリックとルター派の『義認に関する共同宣言』とその問題  第8回 中間総括  第9回 贖罪論の論点  第10回 十字架の意義(1) ロバート・デールとピーター・フォーサイスの場合  第11回 十字架の意義(2) ジェームス・デニーの場合  第12回 十字架の意義(3) カール・バルトの場合  第13回 三位一体論的贖罪論(1) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合  第14回 三位一体論的贖罪論(2) T.F.トーランスとコリン・ガントンの場合  第15回 まとめ</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>	
<p>&lt;テキスト&gt;  特になし</p>	
<p>&lt;参考書&gt;  授業において、必要に応じて指示する</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt;  レポートによって評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講Ⅱb	須田 拓
後期・2単位	<登録条件>学期毎の登録可
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 17世紀イングランドのピューリタン神学について、その論点と特徴とを概説する。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 自由教会の起源と言ってもよいイングランド・ピューリタンの神学の概略を知り、日本の教会の伝統について考えることができる。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 17世紀イングランドのピューリタン神学について、組織神学の観点から講義する。いくつかのトピックを取り上げた上で、現代神学と比較し、現代神学に対する意義について考える。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;  第1回 オリエンテーション  第2回 17世紀イングランドの教会と神学  第3回 三位一体論と聖霊論(1) ソツィーニ主義の主張  第4回 三位一体論と聖霊論(2) ジョン・オーウェンの場合  第5回 三位一体論と聖霊論(3) トマス・グッドウィンの場合  第6回 三位一体論と聖霊論(4) 急進的諸派の聖霊論  第7回 中間総括  第8回 救済論(1) アルミニウス主義と無律法主義  第9回 救済論(2) リチャード・バクスターの場合  第10回 救済論(3) ジョン・オーウェンの場合など  第11回 教会論(1) 国教会体制の神学  第12回 教会論(2) ウェストミンスター会議の神学  第13回 教会論(3) 自由教会の神学  第14回 近代世界の文化価値形成の神学  第15回 まとめ</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt;</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; レポートによって評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特研 I	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 特になし。
<授業のテーマ> 2001年以降、つまり、今世紀に入ってから現れた組織神学関係の書物、あるいは、哲学書を精読し、内容を批判的に吟味しながら、組織神学的思考力を鍛える。	
<到達目標> ①文献の内容について深い理解を得る。②その内容を思想史的文脈や現代の課題との関連の中で考えられるようになる。③文献を批判的に読むことで、神学的な主体性を獲得する。	
<授業の概要> 2015年に出版されたばかりのもので、過去数十年の三位一体論の議論と批判的に対峙しようとしている K. Sonderegger, <i>Systematic Theology</i> , vol. 1 から、第一部と第二部を読み、議論を重ねながら、批判的に内容の理解を深めていく。	
<履修条件> 英語のテキストを毎回10ページ程度読む覚悟のある者。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テキスト、pp. 3-9. (Part One: The One God, § 1. The Perfect Oneness of God/1)</li> <li>3. テキスト、pp. 10-22. (Part One: The One God, § 1. The Perfect Oneness of God/2)</li> <li>4. テキスト、pp. 23-30. (Part One: The One God, § 2. The Divine Oneness as Foundational Perfection/1)</li> <li>5. テキスト、pp. 30-36. (Part One: The One God, § 2. The Divine Oneness as Foundational Perfection/2)</li> <li>6. テキスト、pp. 36-45. (Part One: The One God, § 2. The Divine Oneness as Foundational Perfection/3)</li> <li>7. テキスト、pp. 47-52. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/1)</li> <li>8. テキスト、pp. 52-66. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/2)</li> <li>9. テキスト、pp. 66-77. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/3)</li> <li>10. テキスト、pp. 77-85. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/4)</li> <li>11. テキスト、pp. 85-93. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/5)</li> <li>12. テキスト、pp. 93-106. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/6)</li> <li>13. テキスト、pp. 106-115. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/7)</li> <li>14. テキスト、pp. 115-131. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/8)</li> <li>15. テキスト、pp. 131-147. (Part Two: The Omnipresent One, § 3. The Perfection of the One Lord's Hiddenness: His Omnipresence/9)</li> </ol>	
<準備学習等の指示> テキストに事前に目を通すことは大前提であるが、さらに内容や関連事項についても自分で調べ、考えてくることが重要である。	
<テキスト> 担当者が用意する Katherine Sonderegger, <i>Systematic Theology</i> , vol. 1 からのプリント。	
<参考書> 授業の中で適宜、指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 発表・授業への参加度・期末レポート(本文8,000字以上)の総合による。	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 組織神学演習Ⅱ bとの通年履修が望ましい。
<授業のテーマ> 組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。	
<到達目標> ①高度な神学書の読解力を身に着ける。②バルトの神学的思惟の特徴を理解する。③バルトを通して教義学の特定の課題についての総合的な理解を身に着ける。	
<授業の概要> バルトの『教会教義学』から創造論中の天使論(51節)を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。	
<履修条件> 特になし。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テキスト、165～183頁(1. 天使論の限界①)</li> <li>3. 同、183～206頁(同②)</li> <li>4. 同、206～228頁(同③)</li> <li>5. 同、228～244頁(同④)</li> <li>6. 同、244～260頁(同⑤)</li> <li>7. 同、261～278頁(2. 天国①)</li> <li>8. 同、279～305頁(同②)</li> <li>9. 同、305～325頁(同③)</li> <li>10. 同、325～348頁(同④)</li> <li>11. 同、348～374頁(同⑤)</li> <li>12. 同、375～393頁(3. 神の使者とその敵対者①)</li> <li>13. 同、393～413頁(同②)</li> <li>14. 同、413～432頁(同③)</li> <li>15. 同、432～452頁(同④)</li> </ol>	
<準備学習等の指示> 演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。	
<テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅲ/2 創造者とその被造物(下)』、吉永正義訳(新教出版社、オンデマンド)、165～452頁。	
<参考書> 授業の中で適宜、紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度および小課題による。	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 組織神学演習Ⅱ aとの通年履修が望ましい。
<授業のテーマ> 前期と同じ。	
<到達目標> 前期と同じ。	
<授業の概要> バルトの『教会教義学』から創造論中の天使論(51節)の残り、および同じく倫理学の前半(52節・53節)を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。	
<履修条件> 特になし。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、および、テキスト(天使論)、453～467頁(3. 神の使者とその敵対者⑤)</li> <li>2. 同、467～480頁(同⑥)</li> <li>3. テキスト(倫理学)、3～22頁(創造の教説の課題としての倫理学 1. 特殊倫理学の課題①)</li> <li>4. 同、22～41頁(同②)</li> <li>5. 同、41～57頁(同③)</li> <li>6. 同、58～84頁(2. 命令者としての創造者なる神)</li> <li>7. 同、85～104頁(神の前での自由 1. 祝日①)</li> <li>8. 同、104～120頁(同②)</li> <li>9. 同、120～132頁(同③)</li> <li>10. 同、133～151頁(2. 信仰告白①)</li> <li>11. 同、152～160頁(同②)</li> <li>12. 同、161～178頁(3. 祈り①)</li> <li>13. 同、178～199頁(同②)</li> <li>14. 同、199～217頁(同③)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<準備学習等の指示> 前期と同じ。	
<テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅲ／2 創造者とその被造物〈下〉』、吉永正義訳(新教出版社、オンデマンド)、453～480頁；『教会教義学・創造論Ⅳ／1 創造者なる神の戒め〈i〉』、吉永正義訳(新教出版社、オンデマンド)。	
<参考書> 授業の中で適宜、紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度および小課題による。	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅲ a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 日本の神学に大きな影響を与えたスコットランドの神学者ジェームズ・デニーの古典的なテキストを読み解く。前期は『イエスと福音』をテキストに、新約聖書のキリスト論を教義学的に考察する。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 歴史批評学の知見を念頭に置きながらも、福音を説教する者として揺るがない確信を得ること。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、神学的に討論する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 大学院博士課程前期課程在籍の者。聖書学専攻でも構わない。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 第1回 ジェームズ・デニーの神学の特徴について導入的な考察をし、分担を決める。 第2回 『イエスと福音』 15-50頁の内容を検討する。 第3回 『イエスと福音』 51-82頁の内容を検討する。 第4回 『イエスと福音』 83-115頁の内容を検討する。 第5回 『イエスと福音』 116-148頁の内容を検討する。 第6回 『イエスと福音』 148-186頁の内容を検討する。 第7回 『イエスと福音』 186-218頁の内容を検討する。 第8回 『イエスと福音』 218-253頁の内容を検討する。 第9回 『イエスと福音』 253-290頁の内容を検討する。 第10回 『イエスと福音』 291-332頁の内容を検討する。 第11回 『イエスと福音』 332-375頁の内容を検討する。 第12回 『イエスと福音』 375-417頁の内容を検討する。 第13回 『イエスと福音』 417-455頁の内容を検討する。 第14回 『イエスと福音』 455-485頁の内容を検討する。 第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; J.デニー『イエスと福音』(J.デニー著作集第1巻、一麦出版社、2007年)を各自購入すること。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; 学期末にレポートを提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅲ b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p>&lt;授業のテーマ&gt;  前期に引き続き、ジェームズ・デニーの古典的なテキストを読み解く。後期は名著と謳われる『キリストの死』をテキストに、新約聖書の贖罪論を教義学的に考察する。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt;  歴史批評学の知見を念頭に置きながらも、福音を説教する者として揺るがない確信を得ること。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt;  担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、神学的に討論する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;  大学院博士課程前期課程在籍の者。聖書学専攻でも構わない。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 『キリストの死』 31－59頁の内容を検討する。</p> <p>第2回 『キリストの死』 60－84頁の内容を検討する。</p> <p>第3回 『キリストの死』 85－113頁の内容を検討する。</p> <p>第4回 『キリストの死』 114－141頁の内容を検討する。</p> <p>第5回 『キリストの死』 141－170頁の内容を検討する。</p> <p>第6回 『キリストの死』 171－201頁の内容を検討する。</p> <p>第7回 『キリストの死』 201－226頁の内容を検討する。</p> <p>第8回 『キリストの死』 226－251頁の内容を検討する。</p> <p>第9回 『キリストの死』 253－278頁の内容を検討する。</p> <p>第10回 『キリストの死』 278－308頁の内容を検討する。</p> <p>第11回 『キリストの死』 308－338頁の内容を検討する。</p> <p>第12回 『キリストの死』 339－370頁の内容を検討する。</p> <p>第13回 『キリストの死』 370－401頁の内容を検討する。</p> <p>第14回 『キリストの死』 403－435頁の内容を検討する。</p> <p>第15回 これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt;  前もってテキストの該当箇所をよく読んでくること。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt;  J.デニー『キリストの死』(J.デニー著作集第2巻、一麦出版社、2007年)を各自購入すること。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt;  学期末にレポートを提出してもらう。</p>	



組織神学専攻・組織神学関係	
信条学	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 専攻に関係なく登録可。
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、信条の神学を学ぶ。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 授業の前半で、まず古代教会の基本信条、次いで宗教改革期以後の代表的な信条の特色を把握する。授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読み、実際に信条本文に触れながら、その神学的意味を理解する。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 前半は資料を配付し、講義を行う。後半は担当を決め、教義学の主題ごとに発題し、コメントしてもらう。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：信条・信仰告白とは何かを押さえた上で、使徒信条を学ぶ。</p> <p>第2回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。</p> <p>第3回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。</p> <p>第4回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。</p> <p>第5回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。</p> <p>第6回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。</p> <p>第7回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。</p> <p>第8回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。</p> <p>第9回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。</p> <p>第10回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。</p> <p>第11回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。</p> <p>第12回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。</p> <p>第13回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。</p> <p>第14回：バルメン宣言を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。</p> <p>第15回：日本基督教団信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 教室で渡す資料をよく整理し、保存しておくこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; 『信条集 前後篇』新教出版社、1994年。各自購入すること。またJ・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年。研究室にて割引価格で頒布する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 出席と授業での発表、期末レポートを総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学 I	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。
<授業のテーマ> 修士論文執筆のために必要な技能を学ぶこと、および、修士論文の準備をすること。	
<到達目標> ①組織神学の論文を書くとはどういうことか、そのために必要な技能や作業は何か、を身に着けること。②修士論文執筆に備えての基礎的準備作業（主要文献の読解等）を終えること。	
<授業の概要> 前半では主に論文執筆の過程を学ぶ。後半では各自の修士論文の準備を進めて貰い、順番に報告・発表して貰う。	
<履修条件> 2018年度に修士論文提出予定の者は必修。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション——論文の基本的要件</p> <p>第2回 発表①：各自の論文の主題について</p> <p>第3回 論文作成の技法①：テキストの分析——全体的な内容の把握</p> <p>第4回 論文作成の技法②：テキストの分析——構成を把握する</p> <p>第5回 論文作成の技法③：テキストの分析——書き方を考える</p> <p>第6回 論文作成の技法④：主題の決定・文献探しについて</p> <p>第7回 論文作成の技法⑤：リサーチ・主張（テーゼ）の発見・目次の検討</p> <p>第8回 論文作成の技法⑥：パラグラフ</p> <p>第9回 発表②：修士論文の主題と文献について（1）</p> <p>第10回 発表③：同（2）</p> <p>第11回 発表④：内容の構想について（1）</p> <p>第12回 発表⑤：同（2）</p> <p>第13回 発表⑥：同（3）</p> <p>第14回 発表⑦：修士論文の主題と文献表と基本構想（1）</p> <p>第15回 発表⑧：同（2）</p>	
<準備学習等の指示> 授業をきちんと受けること・自分の研究を着実に進めること。	
<テキスト> 担当者が用意するプリント。	
<参考書> 泉忠司、『90分でコツがわかる！論文&レポートの書き方』（青春出版社）。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度および発表による。	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 狭義の組織神学および実践神学の分野で学期末に修士論文を提出予定の者
<授業のテーマ> 修士論文の作成にあたり、適切な内容と形式について学ぶ。	
<到達目標> 修士論文を完成・提出すること。	
<授業の概要> 各自の学びの成果を順に報告して貰うことで内容を検討すると共に、論文の体裁を持つ短い文章を書いて貰いながら、形式面での基本的技法を学ぶ。	
<履修条件> 2017年9月に狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を提出予定の者は必修。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション——修士論文の基本的要件の確認</p> <p>第2回 各自の論文の主題と文献について①</p> <p>第3回 各自の論文の主題と文献について②</p> <p>第4回 各自の論文の主題と文献について③</p> <p>第5回 主要文献の読書報告①</p> <p>第6回 主要文献の読書報告②</p> <p>第7回 主要文献の読書報告③</p> <p>第8回 二次文献から学んだことについての報告①</p> <p>第9回 二次文献から学んだことについての報告②</p> <p>第10回 二次文献から学んだことについての報告③</p> <p>第11回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について①</p> <p>第12回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について②</p> <p>第13回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について③</p> <p>第14回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について④</p> <p>第15回 形式面の確認・提出の要領について</p>	
<準備学習等の指示> 最大限の時間と能力とを傾注すること。	
<テキスト> 特になし。	
<参考書> 特になし。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表による。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 教理史演習 I b の履修が望ましい。
<授業のテーマ> 学生は、中世・宗教改革期から現代までの洗礼と聖餐の教理を一次資料に当たり学ぶ。	
<到達目標> ①学生はテーマに関する神学概念を習得する。②それを世界史―教会史の文脈において歴史神学的に理解する。③それらの神学思想を現代の教会形成にどう生かすかを実践的に身に着ける。	
<授業の概要> まず、WCC の「リマ文書」を読み教理的合意を学ぶ。次に中世・宗教改革期から現代までの第一次資料を歴史神学的に学び、現代の神学問題への応用を考える。	
<履修条件> 教理史 I b の履修をなるべくすること。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：コースの紹介。履修者との導入討議。</p> <p>第2回：発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名）</p> <p>第3回：発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名）</p> <p>第4回：資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書）</p> <p>第5回：資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン）</p> <p>第6回：資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他）</p> <p>第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、プリンガーと「第二スイス信仰告白」）</p> <p>第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」）</p> <p>第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他）</p> <p>第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言）</p> <p>第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など）</p> <p>第12回：資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」）</p> <p>第13回：資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J. ウェスレーと「宗教箇条」）</p> <p>第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革―長老派系、会衆派系、メソヂスト系、バプテスト系、その他）</p> <p>第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ</p>	
<準備学習等の指示> 「リマ文書」の学びは発表形式で行うが、以後は講義形式でテキストを読み、質疑応答を行う。	
<テキスト> 『洗礼・聖餐・職務』（教団出版局）。	
<参考書> A. E. マックグラース『宗教改革の思想』（教文館）。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生の講義に対して積極的に質問する。2. 期末には各自の研究レポートを作成し提出する（枚数は400字詰め原稿用紙で25枚）。3. 到達目標に掲げた基準にそって評価を与える。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習 I b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 教理史演習 I a の履修が望ましい。
<授業のテーマ> 学生は、中世・宗教改革期から現代までの洗礼と聖餐の教理を一次資料にあたり学ぶ。	
<到達目標> ①学生はテーマに関する神学概念を習得する。②それを世界史―教会史の文脈において歴史神学的に理解する。③それらの神学思想を現代の教会形成にどう生かすかを実践的に身に着ける。	
<授業の概要> まず、WCCの「リマ文書」を読み教理的合意を学ぶ。次に中世・宗教改革期から現代までの第一次資料を歴史神学的に学び、現代の神学問題への応用を考える。	
<履修条件> 教理史 I a の履修をなるべくすること。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：コース紹介。履修者との導入討議。</p> <p>第2回：発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名）</p> <p>第3回：発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名）</p> <p>第4回：資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書）</p> <p>第5回：資料研究（二） 同上 2（トマス・アクイナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等）</p> <p>第6回：資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他）</p> <p>第7回：資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、プリンガーと「第二スイス信仰告白」）</p> <p>第8回：資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」）</p> <p>第9回：資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他）</p> <p>第10回：資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言）</p> <p>第11回：資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など）</p> <p>第12回：資料研究（九） プューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」、「ロンドン宣言」）</p> <p>第13回：資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」）</p> <p>第14回：資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革―長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他）</p> <p>第15回：資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。</p>	
<準備学習等の指示> 「リマ文書」の学びは発表形式で行うが、以後は講義形式でテキストを読み、質疑応答を行う。	
<テキスト> 『洗礼・聖餐・職務』（教団出版局）。	
<参考書> A. E. マックグラース『宗教改革の思想』（教文館）。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生の講義で積極的に質問すること。2. 期末には各自の研究レポートを作成し提出する（枚数は400字詰め原稿用紙25枚）。3. 上記の到達目標に掲げた基準にそい評価を与える。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講 I a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 教会史特講 I b の継続履修も望ましい。
<授業のテーマ> キリスト教的霊的生活の歴史を概観し、とくに礼拝と祈禱を捧げる生活の形成の神学を学ぶ。	
<到達目標> ①霊的生活の形成にかかわる祈りと礼拝の本質を把握する。②世界史—教会史の文脈のなかで礼拝と祈禱の生活形成の方向性を学ぶ。③この学びから現代の教会共同体の礼拝と祈りの実践と方法を各自獲得する。	
<授業の概要> 聖書成立時代から中世末期までの霊的神学者や修道会士らの実践テキストからテーマ別に学ぶ。	
<履修条件> 教会史特講 I b も履修することが望ましい。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：参加者の目標と関心の共有。コースの紹介と導入講義「霊的生活と霊性とは何か？」</p> <p>第2回：講義：聖書正典における「神の像、似像」としての人間と救済史観（新共同訳聖書）</p> <p>第3回：発表（一）：新約聖書における礼拝：0.クルマン『原始キリスト教と礼拝』から（数名）</p> <p>第4回：発表（二）：新約聖書における「祈り」：0.クルマン『新約聖書における祈り』から（数名）</p> <p>第5回：史料分析（一）：古代東方教会：オリゲネスの神の像と救済史観、礼拝と祈り</p> <p>第6回：史料分析（二）：古代東方教会：アタナシオスの神の像と救済史観、礼拝と祈り</p> <p>第7回：史料分析（三）：古代西方教会：アウグスティヌス：神の像と救済史観、礼拝と祈り観</p> <p>第8回：史料分析（四）：古代末期～初期中世教会：ヌルシアのベネディクトゥス：修道制の理念</p> <p>第9回：史料分析（五）：盛期中世教会：カンタベリーのアンセルムス：礼拝と祈り、神の像と救済史観</p> <p>第10回：史料分析（六）：盛期中世教会：クレルヴォーのベルナルドゥス：神の像と救済史観、礼拝と祈り</p> <p>第11回：史料分析（七）：盛期中世教会：サン・ヴィクトールのリカルドゥス：神の像と救済史、祈り</p> <p>第12回：史料分析（八）：盛期中世教会：アッシジのフランチェスコ、ボナヴェントゥーラ：神の像と救済史観、礼拝と祈り</p> <p>第13回：史料分析（九）：盛期中世教会：トマス・アキナス：神の像と救済史観、礼拝と祈り</p> <p>第14回：史料分析（十）：後期中世教会：ヨハネス・タウラーおよび女性神秘主義者：神の像と救済史観、礼拝と祈り</p> <p>第15回：まとめ</p>	
<準備学習等の指示> 演習に積極的に参加し、テキスト理解からの洞察を実践的な生活へ適用する関心を養う。	
<テキスト> 0.クルマン『新約聖書における祈り』（教文館）；同『原始キリスト教と礼拝』（コピー配布） A・マクグラス『キリスト教の霊性』（教文館）。	
<参考書> 授業のなかで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表、討論に参加する。2. 期末には各自のテーマにそった研究レポートを提出する（400字詰め原稿用紙25枚）。3. 評価の基準は、上掲の到達目標に記した基準に従って判定する。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講 I b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 教会史特講 I a の履修も望ましい。
<授業のテーマ> キリスト教的霊的生活の歴史を概観し、とくに礼拝と祈禱を捧げる生活の形成の神学を学ぶ。	
<到達目標> ①霊的生活の形成にかかわる祈りと礼拝の本質を把握する。②世界史—教会史の文脈のなかで礼拝と祈禱の生活形成の方向性を学ぶ。③この学びから現代の教会共同体の礼拝と祈りの実践と方法を各自獲得する。	
<授業の概要> 宗教改革時代から現代までの霊的神学者や修道会士らの実践テキストからテーマ別に学ぶ。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：コースの紹介。参加者の目標や関心を共有する話し合い。</p> <p>第2回：発表—P. T. フォーサイス『祈りの精神』の発表と討論（複数名の発表）</p> <p>第3回：史料分析（一）：十六世紀ドイツ宗教改革（1）：M. ルターの神の像と救済史観</p> <p>第4回：史料分析（二）：十六世紀ドイツ宗教改革（2）：M. ルターの神の礼拝と祈り観</p> <p>第5回：史料分析（三）：十六世紀スイス宗教改革（1）：J. カルヴァンの神の像と救済史観</p> <p>第6回：史料分析（四）：十六世紀スイス宗教改革（2）：J. カルヴァンの礼拝と祈り観</p> <p>第7回：史料分析（五）：十六世紀対抗宗教改革：トレント公会議の救済観と I. ロヨラの『霊操』の祈り観</p> <p>第8回：史料分析（六）：十七世紀ドイツ敬虔主義（1）：J. アルントの神の像と救済史観、礼拝と祈り</p> <p>第9回：史料分析（七）：十八世紀ドイツ敬虔主義（2）：P. シュペーナーと A. フランケの救済観、祈り</p> <p>第10回：史料分析（八）：十八世紀英国の敬虔主義：J. ウェスレーの神の像と救済史観、礼拝と祈り</p> <p>第11回：史料分析（九）：十八～十九世紀米国の大覚醒運動：J. エドワーズと C. フィニーの救済観、祈り</p> <p>第12回：史料分析（十）：十九世紀日本の霊的神学者：植村正久と逢坂元吉郎の救済観、礼拝と祈り</p> <p>第13回：史料分析（十一）：二十世紀スイス神学：K. バルトの神の像と救済史観、祈りと神学</p> <p>第14回：史料分析（十二）：二十世紀スイス神学：E. ブルンナーの神の像と救済史観、祈りと礼拝</p> <p>第15回：史料分析（十三）：現代神学：ポスト・モダンの神学者の神の像と救済史観、祈り観、総合討論</p>	
<準備学習等の指示> 演習に積極的に参加し、テキスト理解からの洞察を実践的な生活へ適用する関心を養う。	
<テキスト> A・マクグラス『キリスト教の霊性』（教文館）。	
<参考書> 授業のなかで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 発表、討論に参加する。2. 期末には各自のテーマにそった研究レポートを提出する（400字詰め原稿用紙25枚）。3. 評価の基準は、上掲の到達目標に記した基準に従って判定する。	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講Ⅱ a	藤本 満
前期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい
<p>&lt;授業のテーマ&gt; ウェスレーの生涯、メソジスト運動の概要を理解する。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 日本の教会の背後にある敬虔主義の流れを理解し、教会に仕えることができるように。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; ウェスレーに流れ込んだ思想的・信仰的背景を学び、信仰復興運動を指導し、やがてメソジスト教会、それと分岐するホーリネス運動、日本のメソジスト教会の歴史、現代のメソジスト教会の関心事に注目する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イギリス宗教改革の特色</li> <li>2. 17世紀アングリカンモラリズムとピューリタニズム</li> <li>3. ドイツ敬虔主義と啓蒙主義</li> <li>4. オックスフォードメソジスト</li> <li>5. ジョージア宣教と挫折</li> <li>6. アルダスゲイト体験の意義</li> <li>7. 野外説教とメソジスト運動</li> <li>8. 信仰復興運動 その1 英米のリバイバルの特質</li> <li>9. 信仰復興運動 その2 賛美と霊性</li> <li>10. 「全き聖化」のリバイバル</li> <li>11. メソジスト伝道者像</li> <li>12. カリスマ指導者の死</li> <li>13. 教会化と19世紀ホーリネス運動</li> <li>14. 日本メソジスト教会</li> <li>15. 世界のメソジストの動向</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 指定された資料を読む</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; ウィリアム・エイブラハム『はじめてのウェスレー』教文館（書店で購入可能）</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 藤本満『ウェスレーの神学』（絶版、中古入手をできるだけ講師が手配）</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業における討論への積極的参加</li> <li>2. ウェスレーの生涯における出来事の一つ取り上げ、彼の生涯とメソジストへの意義を論じる。 (A4用紙、40字×30行×3枚程度)</li> </ol>	



組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講Ⅱ b	藤本 満
後期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい
<p>&lt;授業のテーマ&gt; ウェスレーの神学、その独自性、時代性、普遍性を考える。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 聖化・敬虔を説教において、思考において、牧会において自ら育てていくような牧師を目指す。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 一次資料を用いながら、ウェスレー神学に特色ある項目を学び、宗教改革者・啓蒙主義・東方教父などと比較研究を試みることで、ウェスレー神学の公同性と独自性を学ぶ。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先行の恵み（人間論）</li> <li>2. 信仰義認</li> <li>3. 救いの確証</li> <li>4. 選びの教理をめぐっての論争</li> <li>5. 聖化その1 論争</li> <li>6. 聖化その2 心と生活</li> <li>7. キリスト者の完全</li> <li>8. 最後の義認</li> <li>9. 教会論</li> <li>10. サクラメント</li> <li>11. ウェスレーとルター</li> <li>12. ウェスレーとカルヴァン</li> <li>13. ウェスレーと啓蒙主義</li> <li>14. ウェスレーと東方教会</li> <li>15. ウェスレー解釈をめぐって</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 指定された資料を読む</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; ウェスレーの著作集（一次資料を随時指定）</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 藤本満『ウェスレーの神学』（絶版、中古入手をできるだけ講師が手配） 『ウェスレー説教53』3巻（インマヌエル出版事業部）、あるいは『ウェスレー著作選集』上・中・下（新教出版、絶版）／53の説教すべてを用いることはない。コピーも可</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業における討論への積極的参加</li> <li>2. ウェスレー神学の一項目を取り上げて、論じる。（A4用紙、40字×30行×4枚程度）</li> </ol>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講Ⅱ a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 宗教改革の大きな流れを考慮しつつ、ジュネーヴの改革者カルヴァンの生涯と神学を学ぶ。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 一次史料を十分理解して、カルヴァンの思惟方法と神学の特徴を探る。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 宗教改革者ジャン・カルヴァンの生涯と神学について学ぶ。特に『キリスト教綱要』Ⅰ～Ⅱの神論とキリスト論、聖霊論を読んで、カルヴァン神学の特色をつかむ。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：宗教改革の時代概観：ルターからツヴィングリまで</p> <p>第2回：宗教改革運動の諸相―再洗礼派や熱狂主義</p> <p>第3回：カルヴァンの生涯（1）生誕から『キリスト教綱要』（初版）出版まで</p> <p>第4回：カルヴァンの生涯（2）第一次ジュネーヴ滞在からストラースブルク時代</p> <p>第5回：カルヴァンの生涯（3）ジュネーヴでの活動再開と改革運動の深化</p> <p>第6回：カルヴァンの著作解題</p> <p>第7回：カルヴァン神学の研究史概観</p> <p>第8回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（1）神論Ⅰ 神認識</p> <p>第9回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（2）神論Ⅱ 聖書と神認識</p> <p>第10回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（3）キリスト論Ⅰ 律法と福音、キリストの三職</p> <p>第11回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（4）キリスト論Ⅱ 贖罪</p> <p>第12回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（5）聖霊論Ⅰ 信仰義認</p> <p>第13回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（6）聖霊論Ⅱ</p> <p>第14回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（7）聖霊論Ⅲ</p> <p>第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; カルヴァン『キリスト教綱要』1・2篇（渡辺信夫訳、改訳版、新教出版社）</p>	
<p>&lt;参考書&gt; ニーゼル『カルヴァンの神学』他。教室で指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 積極的授業態度と演習の発表の内容、小論文を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講Ⅱ b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 宗教改革の大きな流れを考慮しつつ、ジュネーヴの改革者カルヴァンの生涯と神学を学ぶ。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 一次史料を十分理解して、カルヴァンの思惟方法と神学の特徴を探る。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 宗教改革者ジャン・カルヴァンの生涯と神学について学ぶ。特に『キリスト教綱要』Ⅲ～Ⅳの教会論に関わるカルヴァン神学の特色をつかむ。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回：カルヴァンと礼拝 第2回：ジュネーヴの教会の実像・カルヴァンにおける教会と国家 第3回：ローマ・カトリック教会との対立 第4回：再洗礼派と熱狂主義者との対立 第5回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（1）悔い改めについて 第6回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（2）信仰義認 第7回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（3）福音と律法 第8回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（4）キリスト教的な自由 第9回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（5）祈りと礼拝 第10回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（6）聖書 第11回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（7）選び 第12回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（8）真の教会と偽りの教会 第13回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（9）戒規 第14回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（10）洗礼 第15回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（11）聖餐</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; カルヴァン『キリスト教綱要』3・4篇（渡辺信夫訳、改訳版、新教出版社）</p>	
<p>&lt;参考書&gt; ニーゼル『カルヴァンの神学』他。教室で指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 積極的授業態度と演習の発表の内容、小論文を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学 I	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt;          修士論文作成のための訓練を行う。特に一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を確認した上で、修士論文の作成指導を行う。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt;          修士論文作成のためのスキルと理論的な基礎を習得する。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt;          歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねる。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 一次史料の読み方：史料の読解</li> <li>2 一次史料の分析</li> <li>3 二次史料の読み方：歴史神学の学術論文の読解</li> <li>4 二次史料の分析</li> <li>5 論文の構想</li> <li>6 論文の表現方法</li> <li>7 参考文献と注</li> <li>8 修士論文の中間発表：主題の提示</li> <li>9 修士論文の中間発表：全体の構成</li> <li>10 修士論文の中間発表：主題の展開</li> <li>11 修士論文の中間発表：校正と注</li> <li>12 歴史神学論文の特色</li> <li>13 修士論文をめぐる討議：史料の読解と扱い</li> <li>14 修士論文をめぐる討議：構成と表現</li> <li>15 総括とまとめ</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt;          N. Cantor, How to Study History を復習しておくこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt;          特に定めない。</p>	
<p>&lt;参考書&gt;          その都度指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;          クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 修士論文作成のための基礎知識の習得と訓練を行う。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 一次史料と二次史料の読み方、論理的な思考力と文章表現を身につけることを目標とする。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 歴史神学の領域で修士論文提出予定者の指導を行う。論文の中間発表を行い、相互の批評、研鑽を重ねるとともに、研究を深める。Cantor, How to Study History を読みながら、歴史神学の論文作成の方法を学ぶ。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>I 歴史神学の論文を書くための基礎作業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 歴史神学とは テキスト発表① A Matter of Definition</li> <li>2 一次史料と二次史料 テキスト発表② The Materials of History</li> <li>3 一次史料を読む テキスト発表③ How to Use Primary Sources i</li> <li>4 一次史料を読む テキスト発表④ How to Use Primary Sources ii</li> <li>5 二次史料を読む テキスト発表⑤ How to Read Secondary Sources i</li> <li>6 二次史料を読む テキスト発表⑥ How to Read Secondary Sources ii</li> <li>7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦ A Practical Lesson in How to Read a History Book i</li> <li>8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑧ A Practical Lesson in How to Read a History Book ii</li> </ol> <p>II 修士論文作成の準備</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 作成の注意と準備</li> <li>10 論文の計画と執筆、注のつけ方</li> <li>11 論文計画発表①</li> <li>12 論文計画発表②</li> <li>13 論文計画発表③</li> <li>14 ディカッション</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 学部演習のテキストを読みなおして、復習しておくこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; Norman Cantor, How to Study History 関川が準備する。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; その都度指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; クラスでの貢献、発表、小論文</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業のテーマ> アメリカ宗教教育史	
<到達目標> 近現代アメリカ市民社会と教会を支えた代表的なキリスト教教育思想の流れを把握する	
<授業の概要> 初めに16～17世紀前半のニューイングランド・ピューリタニズムにおける高等教育を取り上げた後、17世紀後半から20世紀前半までのプロテスタント諸教派を背景とする道徳・宗教・教育、及びその代表的な担い手となった指導者たちの思想を追っていく。その際に会衆派とメソジスト派の系譜を辿ってみる。最後に、日本のキリスト教大学の使命と課題を取り上げる。	
<履修条件> 履修者は授業時に1～2度発表の機会を得るが、発表しない学生も当該箇所を事前に読んで準備し、討論に加わっていただく。	
<授業計画> 1. ニューイングランド・ピューリタニズムにおける高等教育 2. 会衆派教会の経験と慈愛、道徳共同体の構築 3. B.フランクリンの非宗派的な道徳的人間形成ーピューリタニズムと理神論の背景ー 4. アメリカ中西部のキリスト教教育ーコモン・スクーラー 5. 長老派信仰のキリスト教教育観ーマクガフィーの場合ー 6. マサチューセッツの宗教教育・道徳教育ー会衆派とユニテリアニズムー 7. マサチューセッツの宗教教育政策 8. コークスベリー・カレッジの教育 9. メソジスト派カレッジと教育方針 10. プロテスタント大学の高等教育 11. 非宗派的キリスト教大学 12. 日本のキリスト教大学の草創期ーその1ー 13. 日本のキリスト教大学の草創期ーその2ー 14. キリスト教大学の教育論ー環境教育の視点ー 15. キリスト教大学の教育論ー変わりゆく大学の中でー	
<準備学習等の指示> セミナー形式で、発表学生以外の受講者も、指定箇所を予め読んで授業に臨むこと	
<テキスト> ・東京基督教大学共立基督教研究所編、『大学とキリスト教教育』、ヨルダン社、1997年（当該箇所プリント用意） ・大森秀子、『多元的宗教教育の成立過程』、東信堂、2009年（各自購入）	
<参考書> ・四国学院大学キリスト教教育研究所[編]、『大学とキリスト教教育』、新教出版社、2005年 ・P.G.アルトバック・馬越編、『アジアの高等教育改革』、玉川大学出版部、2006年 ・青山学院大学総合研究所キリスト教文か研究所[編]、『キリスト教大学の使命と課題』、教文館、2011年	
<学生に対する評価（方法・基準）> 2/3以上の出席を評価の前提とする。発表と討論での発言などの参加度、レポート（4000字、参考文献1冊以上を列挙、利用すること）提出などで評価する。	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特講 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 現代キリスト教教育学の使命と課題</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; キリスト教教育の中心に据えられる教会教育を学として確立した教会教育学を中心にして、現代のキリスト教教育学の動向を把握し、その使命と課題を把握する</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 各種の教会教育論を統合して学的領域として確立した教会教育学(Gemeindepädagogik)が近年注目されている。その中心にある受洗(前・後)教育の理論と動向を見極めつつ、告白的共同体としての教会の果たすべきディダクターの職務における諸次元の広がり(聖書教育, CS 教育, family ministry, 結婚・家庭教育, 成人教育, キリスト教及び一般の学校教育への射程, その他)を考察していく。 授業の途中で、20世紀後半のアメリカで、代表的な教会教育論の書物数冊を読んで、基本的な知識に習熟し、その後、近年注目されてきたナラティブ・ペダゴジーをナラティブ・セオロジーとの関係で把握し、論じていく。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 履修者は授業時に1～2度発表の機会を得るが、発表しない学生も当該箇所を事前に読んで準備し、討論に加わっていただく。</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 1. 教会教育学とは何か? その一 (講義) 2. 教会教ナラティブ・ペダゴジーとは その二 育学とは何か? その二 (講義) 3. J.D.スマート、『教会の教育的使命』、把握と議論 その一 4. J.D.スマート、『教会の教育的使命』、把握と議論 その二 5. L.M.ラッセル、『キリスト教教育の革新』、把握と議論 その一 6. L.M.ラッセル、『キリスト教教育の革新』、把握と議論 その二 7. J.H.ウェスターホフ、『子どもの信仰と教会』 その一 8. J.H.ウェスターホフ、『子どもの信仰と教会』 その二 9. ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』、その一 10. ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』、その二 11. ナラティブ・ペダゴジーとは その一 12. ナラティブ・ペダゴジーとは その二 13. ナラティブ・ペダゴジーとは その三 14. J.W.ファウラーの信仰発達論との対論 15. 教会教育学の展望</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 履修者に1～2度発表していただくが、発表しない学生も当該箇所を事前に読んで、当日の議論に積極的に加わっていただく。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; 朴憲郁、「教会教育の出現とその特性」、『キリスト教教育論集』第20号、2012年3月、日本キリスト教教育学会、1～15頁、(プリントまた抜き刷りで用意)</p>	
<p>&lt;参考書&gt; ・J.D.スマート、『教会の教育的使命』、(原著1954年)1958年、日本基督教団出版部 ・L.M.ラッセル、『キリスト教教育の革新』、(原著1967年)1971年、新教出版社 ・J.H.ウェスターホフ、『子どもの信仰と教会』、(原著1976年)1981年/1998年、新教出版社 ・ジャック・L.シーモア編、『キリスト教教育の現代的展開』、(原著1982年)1987年、新教出版社</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; 2/3以上の出席を評価の前提とする。発表と討論での発言などの参加度、レポート(4000字、参考文献1冊以上を列挙、利用すること)提出などで評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 前期はウィリモン『翼をもつ言葉』をテキストとして、カール・バルトの神学と実際の説教を説教の観点から学び、さらに日本の教会の説教に対する意義を考察する。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; ウィリモンの書物を理解することよりも、ウィリモンに助けられてバルトの神学的な思惟に触れること。またそれに触発されて、自ら神学的に考える力を身につけること。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 毎回担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で、日本の教会や自らの説教の実践と関連づけながら討論する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 オリエンテーション、説教者の肖像  第2回 第1章 説教者バルト  第3回 第2章 バルトと共に聖書を説教する  第4回 第3章 あなたがたに言葉を授ける  第5回 第4章 神が語る言葉を語る方法  第6回 第5章 言葉が世界をつくる（序、受肉による認識）  第7回 承前（認識と服従～言葉と選び）  第8回 第6章 話し好きな神  第9回 第7章 神の使者（序～非・弁証学的説教）  第10回 承前（使者以上）  第11回 第8章 トラブルが絶えない説教（序、御言葉が創造する世界）  第12回 承前（つつしみの徳～バルトはパウロのように説教する）  第13回 第9章 イースター・スピーチ  第14回 第10章 説教への召し（序）  第15回 承前（説教への召命について、バルトが理解していなかったこと）</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; ウィリアム・ウィリモン『翼をもつ言葉 説教をめぐるバルトとの対話』新教出版社、2015年。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; カール・バルト他『神の言葉の神学の説教』日本基督教団出版局、1988年（オンデマンド）。 カール・バルト『聖書と説教（バルト・セレクション1）』新教出版社、2010年。 加藤常昭『説教者カール・バルト』日本基督教団出版局、1995年（品切）。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 発表、討論への参加、期末レポートによって評価する。</p>	



組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 後期はトーマス・ロング『歌いつつ聖徒らと共に』をテキストとして、死と葬儀について神学的に学び、日本の教会における実践を反省的に考察する。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; ロングの書物はアメリカの教会を背景にして書かれている。ロングから学ぶことにとどまらずに、つねに日本の教会の現状を念頭に置きつつ、死と葬儀についての基本的な考え方を身につけること。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 毎回担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で、日本の教会での状況と関連づけながら討論する。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回    オリエンテーション、教会の葬儀  第2回    第1章 死を示すしるし  第3回    第2章 忌避される体と復活させられた体について  第4回    第3章 キリストにあって死んだ者の将来（大文字で始まる死…、十字架と復活）  第5回               承前（ある葬儀の神学）  第6回    第4章 キリスト教の葬儀に、いったい何が起こったのか  第7回    第5章 信仰のドラマとしての葬儀（160頁3行まで）  第8回               承前（160頁4行以下）  第9回    第6章 わたしたちの死の時に  第10回   第7章 よい葬儀のしるし  第11回   第8章 葬儀のプランを立てる（力と愛と思慮分別、演出、リタージー、文化について）  第12回              承前（中心的な葬儀の儀式のドラマ的構造）  第13回              承前（その他の実践的な問題）  第14回   第9章 生と死についての真実を語る  第15回   補 遺    難しい葬儀</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; トーマス G. ロング『歌いつつ聖徒らと共に キリスト者の死と教会の葬儀』日本基督教団出版局、2013年。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 加藤常昭『キリストの教会はこのように葬り、このように語る』日本キリスト教団出版局、2013年。 石居基夫『キリスト教における死と葬儀 現代の日本的霊性との出逢い』キリスト新聞社、2016年。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 発表、討論への参加、期末レポートによって評価する。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
キリスト教教育特研	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> なし
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 近代日本におけるキリスト教的人間観</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 近代日本におけるキリスト教的人間観を、それを唱える人物と時代状況は異なっても、一貫したものがあり、それが今日まで射程が及ぶことを認識する。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 近代日本におけるキリスト教的人間観が明治維新以来どのように主張され、教育の場で実践的に確立されていったかを辿る。このためのテキストとして第一に、武田清子編、『日本プロテスタントの人間形成論』を用いる。第二に、第二次世界大戦後に制定された教育基本法（1947年）の起草に係わった二人の学者（南原繁、田中耕太郎）のキリスト教的人間観と教育政策論を、拙論テキストによって学ぶ。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キリスト教教育の人間形成論</li> <li>2. 横浜よりの書簡（J・C・ヘボン）</li> <li>3. 日本人の人間改造論（中村正直）</li> <li>4. 同志社教育のヴィジョン（新島襄） （同志社設立の始末記、同志社大学の旨意）</li> <li>5. 教育と宗教の衝突論争（植村正久、柏木義円、他）</li> <li>6. キリスト教と愛国（内村鑑三の「二つのJ」）</li> <li>7. 我が教育の欠陥（新渡戸稲造）</li> <li>8. 基督教的自我、人間の建設（高倉徳太郎）</li> <li>9. 開塾主旨（津田梅子）</li> <li>10. 現代教育の反省（安井哲子）、他（羽仁もと子）</li> <li>11. 宗教の本質と教育の本質、大学と学問（矢内原忠雄）</li> <li>12. 教育の目指す人間像</li> <li>13. 南原繁の「国家と宗教の教育」</li> <li>14. 田中耕太郎の「道徳と宗教の教育」</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 講義と共に、受講生にも随時レポート発表をしていただくセミナー方式を取る。発表者以外の人、テキストの該当範囲を予習熟読することを望む。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 武田清子編、『日本プロテスタント 人間形成論』、世界教育学選集 29、1963年、明治図書。（絶版のため、担当教師がプリントで用意する）。</li> <li>2. 朴憲郁、「国家と宗教教育－南原繁の政治思想から学ぶ－」、「日本における道徳と宗教の教育－田中耕太郎の場合」</li> </ol>	
<p>&lt;参考書&gt; 宇野美恵子、『教育の復権』－大正自由主義教育と自己超越の契機、国際書院、1990年 キリスト教学校教育同盟刊、『日本キリスト教教育史』－思潮編－、創文社、1993年</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的意見表明と討論への参加度、</li> <li>2. 授業時や学期末に提出するレポート</li> <li>3. 全授業の2/3以上の出席をもって評価対象とする。</li> </ol>	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。	
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。	
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。	
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>*オリエンテーション</p> <p>*院長による精神病理の講義。病院見学。</p> <p>*病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。</p> <p>*面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。</p> <p>*各学生によるケース提出とディスカッションを行う。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。	
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。	
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。	
<履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。</li> <li>* 面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。</li> <li>* 各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。</li> </ul> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。	

専攻間共同科目	
日本伝道論演習 a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<授業のテーマ> これまでの伝道論を踏まえた上で、日本伝道論の方途を探り、神学的な理論構築を試みる。	
<到達目標> これまでの宣教パラダイムを正確に理解し、その長所・短所を把握する。	
<授業の概要> 前期は、キリスト教史に出現した伝道論を宣教パラダイムとして整理する。授業の前半で理論を紹介し、後半でそれに対するコメントとリスポンスを行う。	
<履修条件> 大学院博士課程前期課程在籍の者。	
<授業計画> 第1回 初代教会の伝道（1）マタイ 第2回 初代教会の伝道（2）ルカ 第3回 初代教会の伝道（3）パウロ 第4回 教父時代の伝道 第5回 カトリック教会の伝道 第6回 宗教改革の伝道 第7回 啓蒙主義時代の伝道 第8回 エキュメニカルな時代の伝道 第9回 父なる神と伝道 第10回 子なる神と伝道 第11回 聖霊なる神と伝道 第12回 世界史と救済史 第13回 土着化と文化内開花、福音の文脈化 第14回 諸宗教の中の福音 第15回 これまでの議論の総括	
<準備学習等の指示> できれば参考書をそろえ、前もって次の該当箇所を読んでおくことが望ましい。	
<テキスト> 参考書を手元に用意するか、レファランスの図書の該当箇所をコピーしておくことが望ましい。	
<参考書> D.ボッシュ『宣教のパラダイム転換』上・下、新教出版社、1999、2001年。 L.ニュービギン『宣教学入門』日本キリスト教団出版局、2010年。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。	

専攻間共同科目	
日本伝道論演習 b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<授業のテーマ> これまでの伝道論を踏まえた上で、日本伝道論の方途を探り、神学的な理論構築を試みる。	
<到達目標> 特に日本において課題となるものが何かを正確に把握し、その克服の方途を探る。	
<授業の概要> 後期は、日本伝道を阻む要因を探り、順番にその対応方法を考える。交互に講義と演習を交える。	
<履修条件> 大学院博士課程前期課程在籍の者。	
<授業計画> 第1回 リチャード・ニーバー『キリストと文化』の五類型 第2回 リチャード・ニーバーへのレスポンス 第3回 日本人の精神性の底流：汎神論シンドローム (U) 第4回 Uへのレスポンス 第5回 加持祈祷シンドローム (A) 第6回 Aへのレスポンス 第7回 彼岸往生シンドローム (B) 第8回 Bへのレスポンス 第9回 脱自シンドローム (C) 第10回 Cへのレスポンス 第11回 ナショナリズム・シンドローム (D) 第12回 Dへのレスポンス 第13回 セキュラリズム・シンドローム (E) 第14回 Eへのレスポンス 第15回 これまでの議論の総括	
<準備学習等の指示> レスポンスに当たった場合、よく考えてペーパーを用意すること。	
<テキスト> 拙論「福音と日本人の共同幻想」『神学』第77号、2015年。	
<参考書> H. R. ニーバー『キリストと文化』日本基督教団出版局（オンデマンド版）。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを提出してもらう。	

専攻間共同科目	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> なるべく通年で履修する
<p>&lt;授業のテーマ&gt; キリスト教伝道論：福音伝道の本質と方法と文脈化</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序説1－伝道（宣教）学とは何か－</li> <li>2. 序説2－アジア・キリスト教伝道論－</li> <li>3. 序説3－キリスト論的三位一論における諸宗教との対話－</li> <li>4. 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 (以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義)</li> <li>5. 議論の背景</li> <li>6. 権威の問題</li> <li>7. 三位一体の神の宣教</li> <li>8. 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－</li> <li>9. 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－</li> <li>10. 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－</li> <li>11. 福音と世界の歴史</li> <li>12. 神の正義のための行動としての説教</li> <li>13. 教会成長、改宗、文化</li> <li>14. 諸宗教の中の福音</li> <li>15. アジア伝道の反省と展望（講義）</li> </ol>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -, 『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 授業時の発表と参加度、および特定のテーマを課した学期末レポートによって評価する。 出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。</p>	

専攻間共同科目	
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件>なるべく通年で履修する
<p>&lt;授業のテーマ&gt; アジア伝道論の特質とその展開</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; キリスト教は学問理論として研究・考察され得るが、何よりも歴史の中に働く神の啓示たるイエス・キリストの福音の力として、実践的行為において存続する。それは、キリスト共同体形成と福音伝道の形をとる。この福音伝道を理論的、歴史的に考察し、それを特にアジア的文脈において行うことを目指す。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; アジア伝道論の特質と課題を序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北・東南アジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt; 特になし</p>	
<p>&lt;授業計画&gt; 1. 序説ーアジア・キリスト教伝道論ー (以下、3～14まで学生発表と講義) 2. 韓国のキリスト教 初期とカトリック教会 3. 韓国のキリスト教 プロテスタント教会 4. 中国のキリスト教 初期とカトリック教会 5. 中国のキリスト教 プロテスタント教会 6. 台湾のキリスト教 初期とカトリック教会 7. 台湾のキリスト教 プロテスタント教会 8. 香港のキリスト教 9. フィリピンのキリスト教、その1 10. フィリピンのキリスト教、その2 11. タイのキリスト教 12. マレーシアのキリスト教 13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教 14. インドネシアのキリスト教 15. アジア伝道の反省と展望 (まとめ)</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年 初版、重版。今絶版のため、プリント配布など、授業時にテキスト使用について指示する。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 1. 朴論文、「日本プロテスタント伝道の一考察ーアジア伝道の視点からー」、『神学』、71号、2009年12月、89～111頁、2. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989三版、3. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; 授業時の発表と参加度、および特定のテーマを課した学期末レポートによって評価する。 出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。</p>	



実践神学研修課程	
説教学演習 I	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 説教の本質を問う説教学的議論に触れつつ、説教作成の方法を吟味し学ぶ。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 説教作成の方法を職人芸のようにして身につけるだけでなく、つねに説教学的な反省と結びつけながら批判的に習得し、説教者として自己研鑽していくための土台を得ること。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 説教学の課題  第2回 説教と聖書、説教テキストの朗読  第3回 黙想とは何か  第4回 釈義と説教準備  第5回 歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」  第6回 釈義とは何か、「解釈と適用」の問題  第7回 説教黙想とは何か  第8回 釈義と教理、説教と教義学  第9回 説教における説教者  第10回 会衆をめぐる黙想  第11回 キリストの物語とわたしたちの生活  第12回 説教と救済史、終末をめぐる黙想  第13回 説教の構造と構成  第14回 説教の始め方と終わり方  第15回 説教の演述</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 聖書全巻を通読しておくこと。日々の祈りと黙想の生活を確立すること。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt;</p>	
<p>&lt;参考書&gt; R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド） その他については、テーマごとに教室で指示する。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt; 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅱ	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 説教学演習Ⅰを履修済み(予定)
<p>&lt;授業のテーマ&gt; 説教学の基本を学び、会衆席の説教学として実際になされた説教を分析する方法を身につける。</p>	
<p>&lt;到達目標&gt; 多様な説教に触れて説教理解を拡大し、説教を享受する力を磨くこと。</p>	
<p>&lt;授業の概要&gt; 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。</p>	
<p>&lt;履修条件&gt;</p>	
<p>&lt;授業計画&gt;</p> <p>第1回 会衆席の説教学  第2回 分析(1) 植村正久の説教を読む  第3回 説教分析論：なぜ説教を分析するのか  第4回 分析(2) 渡邊善太の説教を読む  第5回 印象批評と第一印象論  第6回 分析(3) 竹森満佐一の説教を読む  第7回 説教の構造と構成をめぐる問題  第8回 分析(4) ルターの説教を読む  第9回 説教における説教者をめぐる問題  第10回 分析(5) カルヴァンの説教を読む  第11回 説教における聞き手をめぐる問題  第12回 分析(6) ジョン・ノックスの説教を読む  第13回 説教と聖書テキストをめぐる問題  第14回 分析(7) ジョン・ウェスレーの説教を読む  第15回 説教における神の名</p>	
<p>&lt;準備学習等の指示&gt; 聖書全巻の通読を続けること。配布される論文、説教を十分読んで準備すること。</p>	
<p>&lt;テキスト&gt; 論文、説教などを教室で配布する。</p>	
<p>&lt;参考書&gt; 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館、2008年。 出村彰編『宗教改革時代の説教』教文館、2013年。</p>	
<p>&lt;学生に対する評価(方法・基準)&gt; 発表と授業への参加度、レポートによって評価する。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅲ	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 実際に説教を作成し、同級生の前で語り、それについて説教批判を受けてみる。	
<到達目標> 伝道者として説教を担当できるようになる。	
<授業の概要> 担当者を決めて、指定された聖書テキストに従って説教を準備し説教する。また説教批評を共有し、説教者としての自己吟味の能力を養う。	
<履修条件> 修士論文を提出し、受理されて、博士課程前期課程修了見込みである者。	
<授業計画> 0 1. 諸信条、信仰告白・信仰問答における説教 説教とは何か 説教者とは何か 0 2. テキストの選び方、区切り方 0 3. 信徒研修会・修養会の開会礼拝 0 4. 信徒研修会・修養会の閉会礼拝 0 5. ロマ書4章の説教1 0 6. ロマ書4章の説教2 0 7. ロマ書4章の説教3 0 8. 創世記15章の説教1 0 9. 創世記15章の説教2 1 0. 詩編32編の説教 1 1. 聖餐式のある日の説教1 1 2. 聖餐式のある日の説教2 1 3. 洗礼式のある日の説教 1 4. 旧約聖書による説教 1 5. まとめ	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> 普段教会で使っている聖書（日本語）	
<参考書> その都度指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 説教の内容と語り方全体また説教批評も重視される。最後にレポートを提出してもらう。	

実践神学研修課程	
礼拝学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2018年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業のテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。	
<到達目標> 教会や学校で礼拝を整え、奉仕者を指導し、結婚式、葬式等の諸式を執り行うことができるようになること。	
<授業の概要> 主日礼拝の主要な要素や、主日礼拝以外の諸礼拝、結婚式、葬儀などについて、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。	
<履修条件>	
<授業計画> 第1回 礼拝学的思考の特質について 第2回 宗教改革の礼拝 第3回 典礼の刷新、東方教会の奉神礼 第4回 現代の礼拝、礼拝改革 第5回 礼拝式と祈祷 第6回 礼拝式文の位置と使い方 第7回 賛美、礼拝音楽 第8回 洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福 第9回 聖餐礼典 第10回 結婚式・婚約式 第11回 葬儀 第12回 信徒の礼拝奉仕 第13回 礼拝堂 第14回 教会暦と聖書日課 第15回 教会学校の礼拝	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<参考書> 由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011年。 W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998年（オンデマンド）。 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

実践神学研修課程	
牧会学演習	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2018年4月に教会、学校に赴任する意志が明確であること
<授業のテーマ> 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。	
<到達目標> さまざまな牧会の場面において、ふさわしい対応ができる基礎を得ること。ただ一つの正解があるわけではなく、その都度の対応が求められるが、それを神学的に反省する力を身につけること。	
<授業の概要> 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身につける。	
<履修条件>	
<授業計画> 第1回 牧師学としての実践神学 第2回 召命と准允、按手 第3回 「牧師職」、赴任と離任、招聘制度と牧会 第4回 教会でのふるまい、人間関係 第5回 結婚と離婚、同性愛 第6回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第7回 病者の牧会 第8回 高齢者の牧会 第9回 葬儀とその周辺 第10回 告解・面談・訪問 第11回 洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育 第12回 聖餐と牧会 第13回 教会戒規 第14回 教会会議（教会総会、役員会）と議長職 第15回 全体教会と個教会、教会の制度	
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。	
<テキスト>	
<参考書> E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局、1961、1970年（オンデマンド）。 ウィリアム・ウィリモン『牧師』新教出版社、2007年。 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。	

<b>実践神学研修課程</b>	
<b>総合特別講義</b>	<b>朴 憲郁</b>
<b>後期・4単位</b>	<登録条件> 修士論文を提出し、2018年4月に教会・学校に赴任する意志の明確な者
<b>&lt;授業の到達目標及びテーマ&gt;</b> 牧会・伝道上直面する問題、課題に適切に対応していくために必要な学びである。	
<b>&lt;授業の概要&gt;</b> その分野の専門家が、テーマごとの講義を行うオムニバス形式の総合講義である。	
<b>&lt;履修条件&gt;</b> 原則として全回出席すること。	
<b>&lt;授業計画&gt;</b> 第1回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝前史 第2回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅰ」歴史的歩み＝合同神学校以後 第3回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争前） 第4回：関川泰寛教授「東京神学大学史Ⅱ」日本基督教団関係史（紛争後） 第5回：山口隆康講師「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団成立前 第6回：山口隆康講師「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団成立後 第7回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」教団史と紛争史の視点 第8回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」「教団紛争」とは何であったか？ 第9回：大住雄一教授「日本基督教団教憲・教規」 第10回：大住雄一教授「各教会規則・宗教法人規則」 第11回：川島隆一講師「部落解放とキリスト教Ⅰ」 第12回：川島隆一講師「部落解放とキリスト教Ⅱ」 第13回：小島誠志講師「地方伝道」 第14回：小島誠志講師「地方伝道」 第15回：岩田昌路講師「青年伝道」 第16回：岩田昌路講師「青年伝道」 第17回：本間義信講師「刑務所伝道」 第18回：本間義信講師「刑務所伝道」 第19回：春原禎光講師「ITと伝道」 第20回：春原禎光講師「ITと伝道」 第21回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第22回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」 第23回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第24回：篠浦千史講師「障がい者と教会」 第25回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第26回：朴米雄講師「在日コリアン問題」 第27回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第28回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」 第29回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第30回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第31回：棚村重行特任教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第32回：棚村重行特任教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第33回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第34回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第35回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」 第36回：野村忠規講師「牧会者の試練とその克服」  ※講師は予定。当該年度に決定する。	
<b>&lt;準備学習等の指示&gt;</b> 日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通しておくこと。	
<b>&lt;テキスト&gt;</b> 「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」等、講師がその都度指示する。	
<b>&lt;参考書&gt;</b> 担当教授、講師が講義の中で紹介する。	
<b>&lt;学生に対する評価（方法・基準）&gt;</b> 教職セミナーを含む毎回の講義の出席を評価の前提とする。また、牧会にあたってどういうことが有益であり、学習したかを学年末に2000字以内にまとめて提出する。そして、その末尾に今後の総合講義に対する意見を一言述べること。	